

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：20101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H02527

研究課題名(和文) Out of Africa: ホモ・サピエンスのアジア拡散モデルの再構築

研究課題名(英文) Out of Africa: reconstruction of dispersal model of Homo sapiens into Asia.

研究代表者

松村 博文 (Matsumura, Hirofumi)

札幌医科大学・保健医療学部・教授

研究者番号：70209617

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,600,000円

研究成果の概要(和文)：形態とゲノムデータをもとに、脱アフリカした現生人類がいつどのようなルートで拡散し現在にいたったか、その解明を目的とした研究の結果、ホモ・サピエンス拡散の二層モデルを強固に構築するに至った。その骨子は、日本を含むユーラシア東南部の先史採集狩猟民は、アフリカからユーラシア南部を経て拡散し、ニューギニアやオーストラリア先住民とも共通の祖先を有する人々で構成され、そのいっぽうでシベリア北部を横断し最寒期を生き抜いた北東アジア人が黄河揚子江域での農耕開始を境に急速大規模に拡散し、熱帯由来の先住狩猟民と交替したとするモデルである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

われわれホモ・サピエンスがいかに地球上に拡散したかというテーマは、現代に生きる全人類にとって普遍的な科学テーマであり、人類の起源と多様性への理解を深めるものとして世界の人々から大きな関心が寄せられている。そのため新知見が頻繁に一流誌に掲載されており研究競争も激しい。本研究では自前で発掘した先史人骨を質量ともに蓄積させており、いっぽうでゲノム研究者もデータ解析や分析手法を独自に発展させてきた。このように独自の発掘によって得た資料の利用と、形態と遺伝が強力にタイアップさせていることが本研究の大きな特色であり、世界にインパクトを与える人類史の更新に寄与することができた。

研究成果の概要(英文)：This study emphasizes a "two-layer model" for eastern Eurasian anatomically modern human (AMH), based on cranial morphometric and genome data including findings from ancient archaeological contexts. Results suggest that an initial "first layer" of AMH had related closely to ancestral Andaman, Australian, Papuan and Jomon groups who likely entered this region via the Southeast Asian landmass. A later "second layer" shared strong cranial affinities with Siberians, implying a Northeast Asian source, in central China and then followed by expansions of descendant groups into Southeast Asia after Neolithic period. These two populations shared limited initial exchange, and the second layer grew at a faster rate and in greater numbers, linked with contexts of farming that may have supported increased population densities. Clear dichotomization between the two layers implies a temporally deep divergence of distinct migration routes for AMH through both southern and northern Eurasia.

研究分野：生物人類学

キーワード：先史学 人類学 形態 ゲノム アジア ホモ・サピエンス 拡散

1. 研究開始当初の背景

ホモ・サピエンスが十数万年前にアフリカで出現し、その後地球上の世界各地に生息域を広げたが、その拡散のタイミングやプロセスを明らかにすることは、いわば古くて新しい問題でもある。従来のシナリオはアフリカを起点として、単に世界各地に放射状に拡散したとする単純な図式で描かれていた。最近のゲノム研究では、従来のこうした単系統起源 (Single Wave Dispersal) も根強く支持されている一方で、アフリカからの拡散は、系譜の異なるグループにより複数回にわたって生じたことを示唆する論文が相次いで発表され (Multiple Waves Dispersal)、ホモ・サピエンスの拡散移住について新たな解釈が示されている。ユーラシアでは、後述するように本研究チームによる先史人骨の発掘と形態研究をもとに、完新世初期まではアジア東南部の広域に、現代アジア人とは全く異なる集団が居住していた可能性を指摘し、この地域に系譜が明確に異なるサピエンスの置換混血が生じたとする仮説を提唱することによって、現生人類の新たな移住モデルとしてこの地域の人類の拡散史の再構築を試みてきた。そのプロセスでは従来あまり検証されなかった問題も浮かび上がっており、これまでさほど議論の対象とならなかった北東アジア人の起源もその一つである。従来は東南アジア人の北上により由来したとする北上説が主流であったが、東南アジアとは関係なく、西からの系譜の異なる集団のシベリア横断説も有力な仮説として浮上している。しかしこの仮説は想像の域を越えず、北東アジア人と西半球のサピエンスとの関係が不明瞭なため、ユーラシア南部の集団や縄文人以上にその起源がわかっていないのが現状である。いっぽうでは、アルタイ山脈から出土したデニソア人は、そのゲノム解析によりネアンデルタール人に近縁であり、しかも現代のメラネシアの人々にも共通する遺伝子が検出され、サピエンスの拡散ルートの解明に新たな謎を提供している。このようにホモ・サピエンスの Out of Africa による拡散プロセスの研究と論争は、相次いで発掘される先史人骨の発見の蓄積とゲノムワイド解析のめざましい技術的發展により新たな段階を迎えている。

2. 研究の目的

アフリカで進化し約 20 万年前に出現したホモ・サピエンスは、その後アフリカを出て (Out of Africa) およそ 4 - 5 万年前になりユーラシア東部まで拡散したと推定されている。従来はアフリカを起点にヨーロッパ、アジア、サフルヘへと放射的に拡散した図式が一般的であったが、最近の遺伝学的知見や形態学的研究から現生人類の拡散はこうした単純で一直線的なものでなく、古くに分岐し系譜を異にしたサピエンスによる複数回の拡散移住と混血置換があった可能性や、さらには初期サピエンスにネアンデルタール人やデニソア人などサピエンス以外の人類との交雑の可能性も浮かび上がっている。本研究では現生人類のアジアへの時空的な移住の経路と回数 (重層構造の有無) を形態学と遺伝学の両域から解明し、脱アフリカ後のホモ・サピエンスの拡散モデルの再構築をおこなう。

3. 研究の方法

形態データは、頭骨と歯を対象として各地の大学、博物館等に保管されている人骨から形態データを採取するとともに、諸外国での発掘調査もおこない新資料となる人骨の発見もめざす。DNA については対象集団の頬粘膜細胞や血液、また形態研究者と連携し古人骨からサンプリングし、次世代シーケンサーを用いてのゲノム規模での SNP 解析やミトコンドリア DNA の D ループあるいは全配列も含めての系統解析をおこなう。これらのデータ解析をもとに、集団の移住に伴うボトルネック効果、あるいは集団間交流 (混血) 等の可性をも考慮し、考古学的に推定される移住ルートとも対比させながら、ホモ・サピエンスの拡散ルートとその時期を推定し、拡散モデルの構築をおこなう。

4. 研究成果

形態とゲノムデータをもとに、脱アフリカした現生人類がいつどのようなルートで拡散し現在にいたったか、その解明を目的とした研究の結果、ホモ・サピエンス拡散の二層モデルを強固に構築するに至った。その骨子は、日本を含むユーラシア東南部の先史採集狩猟民は、アフリカからユーラシア南部を経て拡散し、ニューギニアやオーストラリア先住民とも共通の祖先を有す

る人々で構成され、そのいっぽうでシベリア北部を横断し最寒期を生き抜いた北東アジア人が黄河揚子江域での農耕開始を境に急速大規模に拡散し、熱帯由来の先住狩猟民と交替したとするモデルである。

この新しい時空拡散モデルを構築にいたるまでには、ステップアップ課題として以下の4つの問題解明に挑戦し、分野ごとの個別の研究成果（形態・考古：松村、海部；遺伝・ゲノム：斎藤、篠田）を総合的に解釈することによって目的を達成した。

(1) 東南アジアのホモ・サピエンスの二層構造：先住オーストロ・メラネシア系集団に北東アジア系新石器時代農耕集団の拡散による混血・置換によることが示唆されているが、発掘調査による新資料の分析も含めさらに広域で検証する。

成果：発掘調査による新資料の発見として、インドネシアでのグアハリマウ遺跡の継続調査、ならびにベトナムのパウドゥ遺跡の発掘調査を実施した。グアハリマウ遺跡からは数体の4500年前の先住狩猟民の埋葬人骨を、パウドゥ遺跡の貝塚からは6000年前の人骨の発見にいたっている。これらの人骨は新石器時代にはじまる稲作農耕以前の段階の集団であり、この地域における人類集団の二層構造のうちの基層集団に相当し、現代のオーストラリア先住民やパプア集団と同じ系譜に属するグループであることが頭骨形態データから解明された。インドネシアのグアハリマウ遺跡の形態解析とゲノム解析を終え、オーストロネシア集団の中国南部台湾からの Out of Taiwan 仮説の完全実証に至る成果を得た。いっぽう、台湾の小馬洞穴出土の6000年前の人骨の形態から、ネグリトが居住していた可能性が示唆された。

(2) ネグリトならびにオーストロ・メラネシア集団と先史東南アジア人の遺伝学的系譜：これらの現代人は東南アジアの農耕以前の狩猟民とともに、二層モデルにおける基層集団に属し、ユーラシア南部を横断してスンダサフルに至った可能性が高い。これら現代、先史の両集団についてゲノム解析と形態からインド、西アジア、アフリカ集団との関係解明に挑む。

成果：アンダマン諸島、マレー半島、フィリピン諸島散在するネグリト集団について、ゲノム規模 SNP データを比較解析した。その結果、彼らネグリト人はパプアニューギニアやオーストラリアに移動したサフル人と系統的に近いことが明らかになった。縄文人についても、北海道礼文島の船泊遺跡の試料において全領域に近い規模でゲノム解析に成功し、現代の多くの東アジア人とは3, 4万年以上前の相当に古い段階で、分岐した集団であることが示唆された。

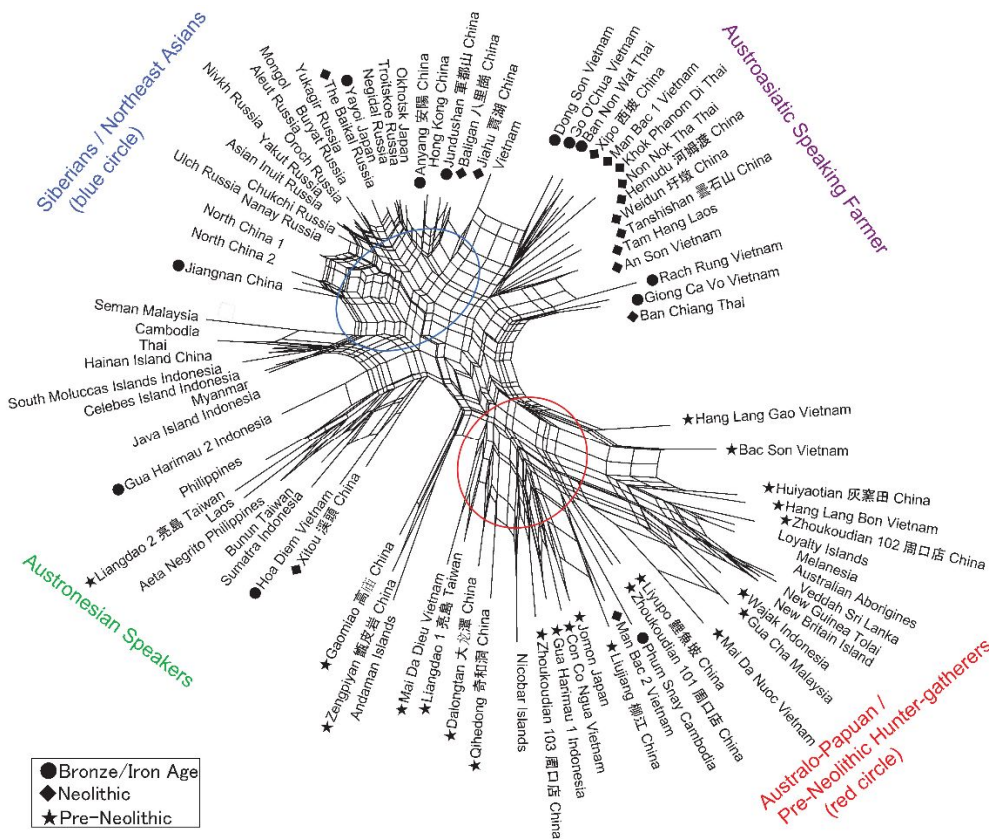
(3) 北東アジアのホモ・サピエンスの起源 北上説 vs 横断説：二層モデルの後期拡散の担い手であり寒冷地適応形態を呈する北東アジア人の起源の解明は、本研究の究極目標である Single Wave か Multiple Waves のどちらのモデルを描くかの要となる。従来は更新世の東南アジア人が北上に由来するという東部ユーラシア北上説が示されてきたが、最近の遺伝学的研究により浮上しているのが北部ユーラシア横断説であり、東南アジア先住集団とは無関係のグループがヒマラヤをはさんで北側のシベリアのステップ地帯の横断により至ったとするシナリオである。北東アジア人とのゲノムデータ解析、更新世の周口店上洞人の形態解析、西半球のサピエンスとの関係解明は本課題解明の要である。

成果：アフリカから東部アジアへのホモ・サピエンスの拡散は5万年前より古いという説は、根拠となる遺跡の年代や帰属においてどれも信頼に値するものではない、との検証結果が大多数の研究者に受け入れられることとなった。また旧石器時代から中石器時代の人類においては、大変興味深いことにヨーロッパを含むユーラシア西部と東アジア地域を含むユーラシア東部での類似性がみだされ、また現代のアフリカやオーストラロ・パプアなど熱帯地域の集団とも共通する特徴がみだされた。それらの熱帯地域型集団に比して、寒冷地適応型の特徴を有する北東アジア人は、乾燥地適応の形質を呈するヨーロッパ人とより近い関係にあることも示唆された。この関係性により、北東アジア人の起源についてシベリア横断説がより一層支持されることとなった。

(4) デニソア人の Contamination : オーストラロ・メラネシア系サフルグループには、アルタイ山脈の旧人であるデニソア人と共通の遺伝子が検出されているが、ウオレス線を境にアジア側のサピエンスにはこの共通遺伝子は発見されていない。現代の北東アジア人の拡散以前の東南アジア人や日本の縄文人あるいは琉球の旧石器時代人のゲノム解析によりデニソア遺伝子を探求し、基層集団の実像をより明らかにする。

成果 : ネグリのなかで、ルソン島に居住するアエタはデニソワ人からの遺伝子移入の割合がもっとも高く検出された。彼らと2万年ほど前に分岐したマレー半島のネグリティ人にはデニソワ人のゲノムがほとんど伝わっていないので、分岐後にゲノム移入があった可能性がある。

付記 : 以上の課題にない想定外の成果として、中国南部・東南アジアの先史採集狩猟民の埋葬様式にニークな知見が得られた。骨格の一部焼成跡、解剖学的位置の部分的矛盾、強固な屈葬姿勢などの所見から、ニューギニア高地人の風習として知られている「燻しミイラ」の製作をおこなっていた可能性が考えられ、集団の系譜のみならず、こうした文化的な共通性も示唆された。



参考図 頭骨形態データから描かれた NetSplit 類似図 (Matsumura et al. 2019 Sci Rep より)

世界への発信

以上の研究成果の公表については、様々な国際学会での講演や発表をとおして広く認知されており、頭骨形態分析によって構築された二層モデルの論文は1万1千件、台湾ネグリの論文は2万以上のアクセスにいたっている。また David Reich らとのゲノム共同研究による Science 1本と Nature1本の論文も2万件以上のアクセスされている。松村は本研究の成果を含めた生涯の業績が評価され、日本人類学会賞を授かるに至った。

今後の課題

これまで東アジア、東南アジア、オセアニア地域に限られていた形態データもアフリカ、ヨーロッパまで対象を広げてデータを収集していることから、アフリカとユーラシア東部を結ぶホモ・

サピエンスの拡散ルートの一層の解明が期待される。形態研究については従来計測法による分析については本研究で一区切りをつけており、新手法である3次元スキャナによる頭骨表面座標のデータを用いた相同モデルによる解析をこころみしており、これまで全世界から400例以上の現代人頭骨のデータを蓄積し、全世界的集団変異の解析をおこない、新たな分析手法を確立した。世界各地の先史時代の頭骨からのデータ収集にも着手しており、解析は農耕集団の拡散解明に焦点を当てた次期プロジェクトに継承した。

備考

なお、本研究は、Covid-19 パンデミックによる海外でのフィールドワークや資料調査の中断により、研究期間を2年間にわたって延長した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 17件 / うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 Hung Hsiao-chun, Matsumura Hirofumi, Nguyen Lan Cuong, Hanihara Tsunehiko, Huang Shih-Chiang, Carson Mike T.	4. 巻 54
2. 論文標題 Negritos in Taiwan and the wider prehistory of Southeast Asia: new discovery from the Xiaoma Caves	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 World Archaeology	6. 最初と最後の頁 207 ~ 228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00438243.2022.2121315	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Matsumura Hirofumi, Tanijiri Toyohisa, Kouchi Makiko, Hanihara Tsunehiko, Friess Martin, Moiseyev Vyacheslav, Stringer Chris, Miyahara Kengo	4. 巻 12
2. 論文標題 Global patterns of the cranial form of modern human populations described by analysis of a 3D surface homologous model	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-15883-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Matsumura Hirofumi, Xie Guangmao, Nguyen Lan Cuong, Hanihara Tsunehiko, Li Zhen, Nguyen Khanh Trung Kien, Ho Xuan Tinh, Nguyen Thi Nga, Huang Shih-Chiang, Hung Hsiao-chun	4. 巻 11
2. 論文標題 Female craniometrics support the 'two-layer model' of human dispersal in Eastern Eurasia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-00295-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Alpaslan-Roodenberg Song?, Anthony David, Babiker Hiba, et al., Matsumura Hirofumi,	4. 巻 599
2. 論文標題 Ethics of DNA research on human remains: five globally applicable guidelines	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nature	6. 最初と最後の頁 41 ~ 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41586-021-04008-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang Chuan-Chao, Yeh Hui-Yuan, Popov Alexander N., Zhang Hu-Qin, Matsumura Hirofumi, et al., Pinhasi Ron, Reich David	4. 巻 591
2. 論文標題 Genomic insights into the formation of human populations in East Asia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nature	6. 最初と最後の頁 413 ~ 419
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41586-021-03336-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saitou N.	4. 巻 1
2. 論文標題 My Life as a Molecular Evolutionist.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iDarwin	6. 最初と最後の頁 59-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Takehiro, Adachi Noboru, Kimura Ryosuke, Hosomichi Kazuyoshi, Yoneda Minoru, Oota Hiroki, Tajima Atsushi, Toyoda Atsushi, Kanzawa-Kiriyama Hideaki, Matsumae Hiromi, Koganebuchi Kae, Shimizu Kentaro K, Shinoda Ken-ichi, Hanihara Tsunehiko, Weber Andrzej, Kato Hirofumi, Ishida Hajime	4. 巻 13
2. 論文標題 Whole-Genome Sequencing of a 900-Year-Old Human Skeleton Supports Two Past Migration Events from the Russian Far East to Northern Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Genome Biology and Evolution	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/gbe/evab192	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 OMOTO KEIICHI, BABA HISAO, KANAZAWA EISAKU, YONEDA MINORU, SHINODA KEN-ICHI, KANZAWA-KIRIYAMA HIDEAKI, KAKUDA TSUNEO, ADACHI NOBORU, SAKAUE KAZUHIRO, ALMEDA, JR. FERNANDO A., BAUZON LESLIE E.	4. 巻 128
2. 論文標題 An integrated study of the human skeletal remains discovered in Escalon Cave, northeastern Mindanao, the Philippines	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 93 ~ 111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/ase.200706	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 KANZAWA-KIRIYAMA HIDEAKI, JINAM TIMOTHY A., KAWAI YOSUKE, SATO TAKEHIRO, HOSOMICHI KAZUYOSHI, TAJIMA ATSUSHI, ADACHI NOBORU, MATSUMURA HIROFUMI, KRYUKOV KIRILL, SAITOU NARUYA, SHINODA KEN-ICHI	4. 巻 127
2. 論文標題 Late Jomon male and female genome sequences from the Funadomari site in Hokkaido, Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 83~108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/ase.190415	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumura Hirofumi, Hung Hsiao-chun, Higham Charles, Zhang Chi, et al.	4. 巻 9
2. 論文標題 Author Correction: Craniometrics Reveal “Two Layers” of Prehistoric Human Dispersal in Eastern Eurasia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 7984-7954
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-44355-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Scott Rachel M., Buckley Hallie R., Domett Kate, Tromp Monica, Trinh Hiep Hoang, Willis Anna, Matsumura Hirofumi, Oxenham Marc F.	4. 巻 14
2. 論文標題 Domestication and large animal interactions: Skeletal trauma in northern Vietnam during the hunter-gatherer Da But period	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0218777	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松村博文, 洪曉純, Charles Higham, 張弛, 山形真理子, Lan Cuong Nguyen, 李珍, 范雪春, Truman Simanjuntak, Adhi Agus Oktaviana, 何嘉寧, 陳仲玉, 潘 建国, 賀剛, 孫国平, 黄胃金, 李新第, 魏興寿, Kate Domett, Sian Halcrow	4. 巻 124
2. 論文標題 頭骨測量数提示欧豪大陸東部史前人群拡散的"二層"模式	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南方文物(Nan Fang Wen Wu)	6. 最初と最後の頁 226-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumura Hirofumi, Hung Hsiao-chun, Higham Charles, Zhang Chi, et al.	4. 巻 9
2. 論文標題 Cranometrics Reveal “Two Layers” of Prehistoric Human Dispersal in Eastern Eurasia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-35426-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 篠田謙一, 神澤秀明, 角田恒雄, 安達登	4. 巻 9
2. 論文標題 韓国加徳島遺跡出土人骨のDNA分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文物年報	6. 最初と最後の頁 167-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oxenham M, Hiep HT, Willis A, Jones R, Buckley H, Domett K, Castillo C, Wood R, Bellwood P, Tromp M, Kells A, Piper P, Pham ST, Matsumura H, Buckley H.	4. 巻 92
2. 論文標題 Between foraging and farming: strategic responses to the Holocene Thermal Maximum in Southeast Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Antiquity	6. 最初と最後の頁 940-957
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15184/aqy.2018.69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Lipson, M., Cheronet O, Mallick S, Rohland N, Oxenham M, Pietruszewsky M, Pryce TO., Willis A, Matsumura H, Buckley H, Domett K, Hai NG, T. Hiep H, Kyaw AA, Win TT, Pradier B, Broomandkhoshbacht N, Candilio F, Changmai P, Fernandes D	4. 巻 361
2. 論文標題 Ancient genomes document multiple waves of migration in Southeast Asian prehistory.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Science	6. 最初と最後の頁 92-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/science.aat3188	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumura, H., Shinoda, K., Shimanjuntak, T., Oktaviana, A.A., Noerwidi, S., Sofian, H.O., Prastiningtyas, D., Nguyen, L.C. Kakuda, T., Kanzawa-Kiriyama, H., Adachi, N., Hung, HC., Fan, X., Wu, X., Willis, A., Oxenham, M.F.	4. 巻 13
2. 論文標題 Cranio-morphometric and aDNA corroboration of the Austronesian dispersal model in ancient Island Southeast Asia: Support from Gua Harimau, Indonesia.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0198689.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shinoda, K. Kakuda, T., Doi, N.	4. 巻 44
2. 論文標題 Mitochondrial DNA analysis of the skeletal remains excavated from the old Tokijin tomb, located in the Nakijin village of Okinawa Island.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. D.	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Corny J. , Galland M. , Arzarello M. , Bacon A. M. , Demeter F. , Grimaud-Herv D. , Higham C. , Matsumura H. , Cuong N. L. , Thuy N. K. , Viet N. , Oxenham M. , Sayavongkhamdy T. , Semah F. , Shackelford L. L. , Detroit F.	4. 巻 112
2. 論文標題 Dental phenotypic shape variation support multiple dispersals of anatomically modern humans in Southeast Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Human Evolution	6. 最初と最後の頁 41-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jhevol.2017.08.017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Jinam T. A., Phipps M. E., Aghakhanian F., Majumder P. P., Datar F., Stoneking M., Sawai H. , Nishida N., Tokunaga K. , Kawamura S. , Omoto K. , Saitou N.	4. 巻 9
2. 論文標題 Discerning the Origins of the Negritos, First Sundaland People: Deep Divergence and Archaic Admixture. 	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Genome Biology and Evolution	6. 最初と最後の頁 2013-2022
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/gbe/evx118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Liu, W. , Martinon-Torres M., Kaifu, Y., Wu X., Kono R.T., Chang C.-H . Wei P., Xing S., Huang W., Bermudez de Castro J. M.	4. 巻 162
2. 論文標題 A mandible from the Middle Pleistocene Hexian site and its significance in relation to the variability of Asian Homo erectus.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 American Journal of Physical Anthropology	6. 最初と最後の頁 715-731
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ajpa.23162.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saeki F. , Sawada J. , Suzuki T. , Hatano Y. , Shinoda K.	4. 巻 43
2. 論文標題 Morphological and paleopathological report of the Late Jomon human remains from the Daizen-nominami site, Chiba Prefecture.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. D,	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Adachi N. , Kakuda T. , Takahashi R. , Kanzawa-Kiriyama H. , Shinoda K.	4. 巻 165
2. 論文標題 Ethnic derivation of the Ainu inferred from ancient mitochondrial DNA data.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 American Journal of Physical Anthropology, DOI: 10.1002/ajpa.23338.	6. 最初と最後の頁 139-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ajpa.23338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 篠田 謙一, 神澤 秀明, 角田 恒雄, 安達 登	4. 巻 Vol.125
2. 論文標題 佐世保市岩下洞穴および下本山岩陰遺跡出土人骨のミトコンドリアDNA分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Anthropological Science (Japanese Series)	6. 最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/asj.170509	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村 博文	4. 巻 70
2. 論文標題 ホモ・サビエンスのユーラシアへの拡散とアジア人の起源	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生命の科学 遺伝	6. 最初と最後の頁 451 ~ 459
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 海部 陽介	4. 巻 70
2. 論文標題 21世紀の化石研究が明らかにした人類の起源 ~単純ではなかった私たちの来歴	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生物の科学 遺伝	6. 最初と最後の頁 446 ~ 450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田 謙一	4. 巻 Vol. 70, No.6
2. 論文標題 人類史研究の最前線 -化石とゲノムの研究はどこに向かうのか	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生物の科学 遺伝	6. 最初と最後の頁 442 ~ 445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kanzawa-Kiriyama H., Kryukov K., Jinam T. A., Hosomichi K., Saso A., Suwa G., Ueda S., Yoneda M., Tajima A., Shinoda K., Inoue I., and Saitou N.	4. 巻 62
2. 論文標題 A partial nuclear genome of the Jomons who lived 3000 years ago in Fukushima, Japan.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Human Genetics	6. 最初と最後の頁 213 - 221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/jhg.2016.110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 齋藤 成也	4. 巻 70
2. 論文標題 ゲノム配列とゲノム規模SNPデータが解明する現生人類の進化	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生物の科学 遺伝	6. 最初と最後の頁 460 ~ 464
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計54件 (うち招待講演 34件 / うち国際学会 19件)

1. 発表者名 Matsumura H, Xie G, Hung HC, Nguyen LC, Li Z, Nguyen KK, Huang SC, Hung HC
2. 発表標題 Females of the Yahuai Cave in Guangxi, Xiaoma Cave in Taiwan, Bau Du in Vietnam and other Hunter-Gatherer Sites Belonging to the First Layer of AMH Dispersal
3. 学会等名 The Indo-Pacific Prehistory Association, 22th Congress. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Matsumura H, Xie G, Hung HC, Nguyen LC, Hanihara T, Nguyen KK, Huang SC
2. 発表標題 Female Craniometrics Support 'Two-layer Model' of Human Dispersal in Eastern Eurasia: New Evidence from the Yahuai Cave in Guangxi, Xiaoma Cave in Taiwan, Bau Du in Vietnam and Other Hunter-gatherer Sites
3. 学会等名 第75回日本人類学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松村博文
2. 発表標題 ホモ・サピエンスのユーラシアへの拡散とアジア人の起源
3. 学会等名 第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松村博文, 谷尻豊寿, 埴原恒彦
2. 発表標題 3次元相同モデルによる現代ホモ・サピエンスにおける頭骨形態変異の予備的分析
3. 学会等名 第74回日本人類学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松村博文
2. 発表標題 発掘調査のすすめ
3. 学会等名 日本人類学会賞受賞記念講演(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 篠田謙一
2. 発表標題 DNAで解明する日本人の起源
3. 学会等名 第125回日本解剖学会総会・全国学術集会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hirofumi Matsumura
2. 発表標題 Smoked mummy hypothesis: mortuary practices of dismemberment against post-mortem body among prehistoric hunter-gatherers in southern China
3. 学会等名 第73回日本人類学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松村博文
2. 発表標題 アジアにおけるホモ・サピエンス拡散の二重構造モデル.
3. 学会等名 日本旧石器学会第16回シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Oxenham M, Matsumura H
2. 発表標題 The Bioarchaeology of Kinship, Group Membership and Identity in Neolithic Vietnam.
3. 学会等名 20th Annual Conference of the British Association for Biological Anthropology and Osteoarchaeology. (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsumura H.
2. 発表標題 Dispersal of anatomical modern Homo sapiens in East Eurasia and Sahul in the context of 'Two Layer' model".
3. 学会等名 The Indo-Pacific Prehistory Association, 21th Congress. (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsumura H, Willis A, Hung HC, Nguyen KTK, Li Z, Trinh HH, and Oxenham M.
2. 発表標題 Dismemberment and Post-Mortem Body Manipulation: Early-Mid Holocene Forager Mortuary Practices in Southern China and Southeast Asia
3. 学会等名 The Indo-Pacific Prehistory Association, 21th Congress. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村博文
2. 発表標題 ユーラシアへのサピエンス二層モデルが示唆する人類大移動：頭骨形態データにもとづく最新版
3. 学会等名 第72回日本人類学会大会 シンポジウム：グローバル気候変動と現代型サピエンス全移動史.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村博文、山形真理子
2. 発表標題 東南アジア・中国の先史採集狩猟民に共通するユニークな埋葬
3. 学会等名 東南アジア考古学会2018年度大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 海部陽介
2. 発表標題 ホモ・サピエンス最初のアジア拡散を再考する.
3. 学会等名 第72回日本人類学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kaifu, Y.
2. 発表標題 Stories behind the people's migration from Africa to the Japanese Islands 30000 years ago.
3. 学会等名 PaleoAsia 2018, The International Workshop, Cultural History of PaleoAsia. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 篠田 謙一
2. 発表標題 DNAゲノム解析からさぐる日本列島の古代人 -縄文人と弥生人の関係-
3. 学会等名 公開シンポジウム 日本列島人1000万年 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 篠田 謙一
2. 発表標題 DNAで解明する現生人類の起源と拡散.
3. 学会等名 群馬県立自然史博物館特別展記念講演. (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 最初の日本列島人はどんな人たちだったか
3. 学会等名 グループダイナミクス研究所第3回人づくりフォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 ゲノム歴史学ことはじめ～日本列島人を中心に～
3. 学会等名 広島県呉市医師会 医学会特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤成也
2. 発表標題 Denisovan introgression to Philippine Negritos
3. 学会等名 The Indo-Pacific Prehistory Association, 21th Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松村博文
2. 発表標題 どこから来たホモ・サピエンス？
3. 学会等名 札幌医科大学保健医療学部公開講座兼道民カレッジ 招待講演 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松村博文
2. 発表標題 人類学と考古学を知る・学ぶ シリーズ3：近年のホモサピエンスと縄文人研究の動向から - ユーラシアへの拡散を中心に
3. 学会等名 北海道埋蔵文化財センター講演会兼道民カレッジ 招待講演 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsumura H. , Hung H. C. , Fan X. , Shimanjuntak T. , Wu X. , Oxenham M.
2. 発表標題 Austronesian dispersal hypothesis, verified by prehistoric human remains from Southeast China through the Southeast Asia and Pacific
3. 学会等名 2017 International Austronesian Conference Cultural Heritage and Community Empowerment: Anthropological Perspectives Taiwan 's Southbound Connections. Jiangle, Fujiang China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsumura H. , Shimanjuntak T. , Hung H. C. , Chen C. , Fan X. , Oxenham M.
2. 発表標題 Austronesian dispersal hypothesis, perspectives from prehistoric human skeletal remains in Southeast Asia and China
3. 学会等名 2017 International Austronesian Conference Cultural Heritage and Community Empowerment: Anthropological Perspectives Taiwan 's Southbound Connections. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Saitou Naruya
2. 発表標題 Human evolution in Eurasia elucidated through Genetics, Archeology, and Linguistics
3. 学会等名 シンポジウムGAL Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 DNAから見た日本人の源流
3. 学会等名 福井県立越前古窯博物館 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 「人類進化：多様なアプローチ」 出アフリカ後における現代人のゲノム進化
3. 学会等名 日本人類遺伝学会神戸大会のシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 First Sundaland People and their relationship with Denisovan and East Asian
3. 学会等名 The Landscape of Genetic Variants in Asian Founder Populations - from Near to Far East (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 日本列島人の成立 縄文から弥生へ 日本列島中央部における「うちなる二重構造」
3. 学会等名 第71回日本人類大会 シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 ゲノムと人間の未来 ゲノムと人間の進化
3. 学会等名 ふじのくに文化情報センター グランシップ文化講座 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 Mini-workshop on mathematical modeling of human migration and range expansion Three migration wave model for explaining formation of Japonesian, people living on Japanese Archipelago
3. 学会等名 明治大学現象数理学共同研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 日本列島人の起源と成立
3. 学会等名 足羽三山文化評議会主催第18回講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 日本列島人(ヤポネシア人)のゲノム歴史学 ゲノムデータと言語データとの比較
3. 学会等名 国立遺伝学研究所研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 Genomic history of modern humans in East Eurasia
3. 学会等名 The 15th Korea-Japan-China Bioinformatics Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 日本人はどこから来たのか-縄文時人の遺伝子から-
3. 学会等名 グループダイナミクス研究所価値の伝承セミナー・矢向（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 篠田謙一
2. 発表標題 ゲノムから探る日本人の成り立ち（特別講演）
3. 学会等名 第9回泌尿器抗加齢医学研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 篠田謙一
2. 発表標題 Analysis of the ancient human genome
3. 学会等名 第71回日本人類学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 篠田謙一
2. 発表標題 D N A からみた南西諸島集団の成立
3. 学会等名 鹿児島大学重点領域研究（島嶼）シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamagata M, Matsumura H
2. 発表標題 Central Vietnam, a node of population movement in prehistory: from the archaeological and bio-anthropological viewpoints.
3. 学会等名 8th World Archaeological Congress（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Matsumura H., Shimanjuntak T., Oktaviana A., Nurwidi S., Prastiningtyas D., Cuong NL., Oxenham M., Willis A, Restu R., Hana M
2. 発表標題 Verifying Austronesian Hypothesis from the Skeletal Human Remains from Gua Harimau Site in Sumatra
3. 学会等名 The International Symposium on Austronesian Diaspora (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shinoda K, Kakuda T., Kanzawa-Kiriyama H, Adachi N., Prastingtyas D., Noerwidi S., Matsumura H.
2. 発表標題 Determination of genetic characteristics of ancient skeletal remains excavated from the Gua Harimau site in Sumatra
3. 学会等名 The International Symposium on Austronesian Diaspora (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Prastiningtyas D, Noerwidi S, Herbiyamami ML, Fauzi, MR, Ansyori, M, Matsumura H, Simanjuntak T
2. 発表標題 Prehistoric Burial of Gua Harimau: Socia-Cultural Complexity of Asutronesian Society
3. 学会等名 The International Symposium on Austronesian Diaspora (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hung HC., Carson MT., Deng ZH., Matsumura H.
2. 発表標題 Multiple Waves of Prehistoric Human Migration into and Out of Taiwan The Formation and Dispersal of Early Austronesian-speaking Populations
3. 学会等名 The International Symposium on Austronesian Diaspora (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名	Matsumura H., Shimanjuntak T., Oktaviana A., Nurwidi S., Prastiningtyas D
2. 発表標題	Austronesian hypothesis verified from the skeletal human remains from Gua Harimau Site in Sumatra. Symposium: Dispersal of Austronesian Speakers and Southeast Asian Indigenous.
3. 学会等名	第70回日本人類学会 (国際学会)
4. 発表年	2016年

1. 発表者名	松村 博文
2. 発表標題	先史遺跡から探るホモサピエンスのアジア拡散ルート
3. 学会等名	イチャルバ学術講演 日本人類学会主催 (招待講演)
4. 発表年	2016年

1. 発表者名	松村 博文
2. 発表標題	ホモサピエンスのアジア拡散モデルの再構築
3. 学会等名	沖縄県立博物館・美術館主催文化講座 (招待講演)
4. 発表年	2016年

1. 発表者名	Kaifu Y.
2. 発表標題	How Palaeolithic people crossed the ocean to the Japanese Islands >30,000 years ago: An experimental approach.
3. 学会等名	International Symposium: Human Dispersals in the Late Pleistocene Interdisciplinary Approaches Towards Understanding the Worldwide Expansion of Homo sapiens (国際学会)
4. 発表年	2016年

1. 発表者名 Kaifu Y.
2. 発表標題 Human impacts on the Ryukyu Islands, southwestern Japan, 30,000 years ago: A lesson from an experimental voyage project.
3. 学会等名 8th World Archaeology Congress-8 Kyoto (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 篠田 謙一
2. 発表標題 DNAからみた南西諸島集団の成立
3. 学会等名 鹿児島大学重点領域研究シンポジウム「島嶼」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 篠田 謙一, 神澤 秀明, 角田 恒雄, 安達 登, Truman Shimanjuntak, Agus Oktaviana, Sofwan Nurwidi, Dyah Prastiningtyas
2. 発表標題 インドネシア、グアハリマウ遺跡出土人骨のDNA分析
3. 学会等名 第70回日本人類学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 福島県三貫地貝塚に3000年前に住んでいた縄文時代人の核ゲノム部分配列の決定とその解析
3. 学会等名 日本遺伝学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 東ユーラシア人のゲノムワイドSNP解析
3. 学会等名 日本進化学会ワークショップ「ヒトのゲノム進化」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 人類の多様性
3. 学会等名 国際生物学賞記念シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 三貴地貝塚の縄文人
3. 学会等名 新地町歴史講座(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 斎藤 成也、海部 陽介、米田 穰、隅山 健太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 272
3. 書名 図解 人類の進化 猿人から原人、旧人、現生人類へ	

1. 著者名 Naruya Saitou	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 260
3. 書名 Evolution of the Human Genome I	

1. 著者名 海部 陽介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 338
3. 書名 サビエンス日本上陸 3万年前の大航海	

1. 著者名 篠田謙一, 藤田祐樹(監修)、山本大樹訳、ルイーズ・ハンフリー、クリス・ストリンガー著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 エクスナレッジ	5. 総ページ数 170
3. 書名 サビエンス物語	

1. 著者名 篠田謙一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 群馬県立自然史博物館	5. 総ページ数 40
3. 書名 遺伝子からみた私たちの道のり 図録「人類進化700万年」	

1. 著者名 篠田謙一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 新版「日本人になった祖先たち-DNAが解明する多元的構造-」	

1. 著者名 斎藤成也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 株式会社アダック	5. 総ページ数 215
3. 書名 日本人の源流をさぐる 核DNA解析で見えてきた由来	

1. 著者名 斎藤成也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 215
3. 書名 核DNA解析でたどる 日本人の源流	

1. 著者名 斎藤成也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 145
3. 書名 特集 = 変貌する人類史「日本列島人の起源と成立」 現代思想6月号	

1. 著者名 篠田謙一監修	4. 発行年 2017年
2. 出版社 洋泉社	5. 総ページ数 192
3. 書名 ホモ・サピエンスの誕生と拡散	

1. 著者名 篠田謙一（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日経サイエンス社	5. 総ページ数 127
3. 書名 人類への道 - 知と社会性の進化 - 別冊日経サイエンス Vol. 219	

1. 著者名 Piper P, Matsumura H., and Bulbeck D (editors)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Canberra: Australian National University Press	5. 総ページ数 384
3. 書名 New Perspectives in Southeast Asian and Pacific Prehistory, terra australis 45.	

1. 著者名 Matsumura H, Hung HC, Cuong NL, Zhao YF, He G and Chi Z	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Canberra: Australian National University Press	5. 総ページ数 384
3. 書名 Early Neolithic Hunter Gatherers 'Gaomiao' in Hunan, China: The First of the Two-Layer Model in the Population History of East/Southeast Asia. In: Piper P, Matsumura H., and Bulbeck D (editors) New Perspectives in Southeast Asian and Pacific Prehistory, terra australis 45.	

1. 著者名 Matsumura H., Shimanjuntak T., Oktaviana A., Nurwidi S., Prastiningtyas D., Cuong NL., Oxenham M., Willis A, Restu R., Hana M, Hung HC.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Jakarta: Gajah Mada University Press	5. 総ページ数 593
3. 書名 Verifying Austronesian Hypothesis from the Skeletal Human Remains from Gua Harimau Site in Sumatra. In: Prasetyo B, Nastiti TS, Simanjuntak T editors. Austronesian Diaspora -A New Perspective-	

1. 著者名 Prastiningtyas D, Noerwidi S, Herbiamami ML, Fauzi, M.R, Ansyori, M, Matsumura, H. Simanjuntak T.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Jakarta: Gajah Mada University Press	5. 総ページ数 593
3. 書名 Prehistoric Burial of Gua Harimau: Socio-Cultural Complexity of Austronesian Society. In: Prasetyo B, Nastiti TS, Simanjuntak T editors. Austronesian Diaspora -A New Perspective-	

1. 著者名 Yamagata M, Matsumura H	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Canberra: Australian National University Press	5. 総ページ数 356
3. 書名 Austronesian Migration to Central Vietnam: Crossing over the Iron Age Southeast Asian Sea In: Piper P, Matsumura H., and Bulbeck D (editors) New Perspectives in Southeast Asian and Pacific Prehistory, terra australis 45.	

1. 著者名 Shinoda, K., Adachi, N.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Canberra: Australian National University Press	5. 総ページ数 356
3. 書名 Ancient DNA Analysis of Palaeolithic Ryukyu Islanders. In: Piper P, Matsumura H., and Bulbeck D (editors) New Perspectives in Southeast Asian and Pacific Prehistory. terra australis 45.	

1. 著者名 Shinoda,K., Kakuda,T., Kanzawa-Kiriyama1 H., Adachi,N., Prastiningtyas,D., Noerwidi,S., Matsumura,H	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Jakarta: Gajah Mada University Press	5. 総ページ数 593
3. 書名 Determination of the genetic characteristics of ancient skeletal remains excavated from the Gua Harimau site in Sumatra. In: Prasetyo B, Nastiti TS, Simanjuntak T editors. Austronesian Diaspora -A New Perspective-	

1. 著者名 Saitou N., Jinam Timothy A., Kanzawa-Kiriyama Hideaki, and Tokunaga Katsushi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Australian National University Press	5. 総ページ数 356
3. 書名 Initial movements of modern humans in East Eurasia. In Edited by Philip J. Piper, Hirofumi Matsumura and David Bulbeck (eds.) "New Perspectives in Southeast Asian and Pacific Prehistory"	

1. 著者名 齋藤 成也	4. 発行年 2016年
2. 出版社 宝島社	5. 総ページ数 111
3. 書名 DNAでわかった日本人のルーツ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>札幌医科大学形態人類学研究室研究紹介 https://web.sapmed.ac.jp/anthropology/research/h16o4i0000000075.html 札幌医科大学保健医療学部研究科形態人類学専攻 http://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/g-ptot/g-ptot_keitai.html 札幌医科大学保健医療学部研究科形態人類学研究室 http://web.sapmed.ac.jp/anthropology/research/h16o4i0000000075.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	海部 陽介 (Kaifu Yosuke) (20280521)	国立科学博物館・人類研究部・グループ研究長 (82617)	
研究分担者	篠田 謙一 (Shinoda Ken'ichi) (30131923)	独立行政法人国立科学博物館・その他部局等・館長 (82617)	
研究分担者	斎藤 成也 (Saitou Naruya) (30192587)	国立遺伝学研究所・ゲノム・進化研究系・教授 (63801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	Australian National University	James Cook University		
オーストリア	University of Vienna			
中国	北京大学	広西壮族自治区文物考古研究所	河姆渡遺跡博物館	他7機関
ベトナム	Institute of Archeology	Southern Institute of Social Science		
インドネシア	BRIN National Archeology Center	Center for Austronesian Study		
米国	Oxford University	Smithsonian Institute	American Museum of Natural History	
ロシア連邦	Peter the Great Museum			
ドイツ	German Archaeological Institute,			
フランス	Musee de l' Homme			
英国	The Natural History Museum, London			